

20059

当院におけるカテーテル検査室での臨床工学技士の関わり

当院では、2010年4月から臨床工学技士(CE)が循環器内科の検査・治療の補助を目的として血管造影室の業務を開始した。業務開始当時はポリグラフの取り扱いからはじめ、2013年現在では他職種間との業務分担の関係でオートインジェクター、除細動器、血管内超音波装置、ペースメーカーのプログラマーなどほぼすべての周辺機器操作および保守管理を行っている。また現在は循環器領域での緊急心カテ時には全例でCEが対応しているが、CEが対応できるようになるまでは緊急時は不慣れな看護師が交代で準備していたので、オートインジェクターを使わず手押し造影で定期とは異なる手法で行っていた。定期心カテ時にCEがオートインジェクターを準備するようになったことで年に2回程度あったオートインジェクターからの気泡混入が無くなった。また、緊急心カテ時にもオートインジェクターを使用するようになったことで定期心カテ時と同様に円滑に手技を行うことができるようになり、緊急CAGを手押しで行っていた際平均約75mlであった造影剤の使用量が緊急CAGでもオートインジェクターを使用することにより平均約50mlに減少した。CEが血管造影室での業務を行うようになったことにより、オートインジェクターの安全で円滑な運用をはじめとする効果があったので報告する。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号